**東日本大震災についてアピール**

　今回の東日本大震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された多く方々に心からお見舞い申し上げます。特に、原子力発電所の事故により二重に被災された方のお苦しみには言葉もありません。

　翻って未曾有とも言われる今回のような地震・津波による災害は、自然の歴史の中では繰り返し起こる事であることは知られていないことではありませんでした。

　今回の災害から、私たちが今更のように学んだことは、私たちは自然の中で生かされていると言う事実です。

　人の力で自然が征服できるという思いは､例えば釜石の水深60メートルを超える深さから築き上げた防波堤が大津波の前にはひとたまりもなかったという事実に崩れ去りました。また仙台平野に営々として作られた水田や集落は、地殻変動による地盤沈下と津波の前にはなすすべもなく失われ、今でも広い面積が海水に浸かる姿を見せています。

　また、原子力発電所の事故は、被災された方々と共に、逃げるすべのない多くの生き物たちにも犠牲を強いていることを深く思いを馳せなければなりません。

　一方、人類も他の多くの生き物と同じように地球上の生態系の一員として生まれ、地史的な様々な試練を受けながら、文明を進化発展させ今日の繁栄を築いてきました。

　しかしながら自然の中で、私たち人類は小さな存在であり、脅威と向き合い、その恩恵を受けながら生きていることを謙虚に受け止めなければなりません。

　繁栄が続いた今、私たちは自然への畏れを忘れ、おごりの気持ちが知らず知らずの内に心に宿り、私たちの未来を奪う結果になるかも知れないことに改めて気づかされました。

　神奈川県では、1923年の関東大震災、1703年の元禄大地震、またそれ以前にも地震・津波の被害が繰り返し起きていたことが知られています。

　更に富士山や箱根火山の噴火もありました。これらの現象の再来は今日の科学が予測しているところです。

　また、過去何万年にもわたる歴史の中で、これらの事件にもかかわらず連綿として続いてきた生き物、生態系の歴史があることも事実です。

　今こそ原点に立ち返り、このような地球のシステムの上に生き物たちが作る生態系があり、これに依存して人間の文化が存在していることを想起すべきです。

　自然との共存とは、自然を尊重し保全することと共に、私たちの生活を大地の動きの猛威から守る智恵を自然の営みから学び取ることでもあります。

　そして、このことを踏まえてこそ輝かしい人類の未来が築けるのだと肝に銘ずべきです。

　これは、この度の災害で亡くなられた多くの方々を悼み、被災して苦難の生活を強いられている方々と気持ちを分かち合える道にも他なりません。

宣　　　言

一、　私たちは、自然についての知識を更に深めるための努力を惜しまないようにしましょう。

一、　私たちは、自然と共にあることを忘れず、常にその分に応じた社会の在り方を求め、その輪を広げる努力をしましょう。

一、　私たちは以上のことに多くの人々の思いを集め、政治や神奈川県および県内市町村行政にも反映されるように働きかけ、その実現に向けて共に行動します。

　　　　　　2011年　６月　　NPO法人神奈川県自然保護協会